

安田女子大学×安芸太田町観光協会「困り事解決プロジェクト」第1弾(与一野地区「しだれ桜保全活動」参加者35名)、第2弾(坪野地区「猿被害防止活動」参加者34名)が大成功に終わりました。



この2度の取り組みは、受入れ地区の方々と女子学生の心に「交流の芽」を確実に残したと感じました。この小さな「交流の芽」が大きく花開くよう、当協会として協力をしていければと考えています。



地域の方と女子学生の感想文を一部掲載します。

●安田女子大学生生活デザイン学科2年 ^{みやちはるな}宮地春菜さん(第1弾参加学生)

今回、この授業に参加して本当に良かったです。地域の方々は私たちに「ありがとう」と何度も言ってくださいましたが、私達が有難うございましたと言いたいです。

何の不便もなく、安全に作業できて、たくさんのご機嫌を吸収できました。普段の生活では決して体験することが出来ません。そして何より地域の方々との交流が、一番思い出に残っています。人の温かさをたくさん感じる事が出来ました。私も誰かを思いやる気持ちを大切にしていこうと改めて感じました。ありがとうございます。

皆さんと別れるとき、本当に寂しかったです。たった1日しか一緒にいなかったのにこんなに寂しいんだと思いました。みんな涙をこらえていました。

春になり、桜が咲いたら必ず行きます!! しだれ桜は見たことが無いので楽しみにしています。待っていてくださいね。そして桜が咲いたらまた私たちのことを思い出してください。

●^{しみず たかし}清水孝さん(第2弾柚子もぎインストラクター 坪野地区在住)

冷え込んで積雪15cmのなかでの作業になり心配しましたが、学生さんはとても前向きで安心しました。「美味しい、美味しい」と、もいだ柚子をその場で口に入れていたのが印象的でした。

車座になって食べた豚汁と、弾んだ会話で体も心も温まりました。ふれあいセンターで足湯を楽しんでもらい、自分たちで絞った温かい柚子湯が美味しそうでした。帰られるときには一緒に写真を撮ってもらい、いい思い出が出来ました。

いつもは杖と(高齢者が歩行で利用する)シルバーカーの音くらいしか聞こえない地区ですが、この日は広島の本通にいるような賑やかさで、学生さんの笑い声や、明るい話し声が耳の奥まで入って、なかなか消えません。

とても良い交流でした。学生の皆さん、ご苦労様。ありがとうございました。

本事業について、補助金は一切もらっておらず、全て女子学生が少額ながら小遣いから「授業料」として支払った資金(1人2,500円)と地区の方々を持ち寄ってくださった食材や道具を活用して地区と観光協会共同で運営しています。また、町内のバス会社を手配し、町内のお弁当を購入、食材を調達しています。

過疎かつ超高齢化の町で、最も大切なことは「支える方々が高齢化していく中、無理して大きなイベントを開催し、ステージを作り、都会の方々をもてなし、疲労感を残すこと」ではないと思いますし、もちろん重要ですが「特定事業者だけが関わるような従来型観光」オンリーの観光振興ではいけないと考えています。

そして将来に向けての観光についての概念を大きく変える時期に差しかかっていると捉えており、例え小規模でも、来てくれた人々が新たなことを学び、心の繋がりを感じて当町のファンになる。受け入れた町民の心が元気になり、更なる交流に進む。町内経済への寄与や困り事の解決など、物理的な町内への貢献ができる。さまざまな地区に協力いただき、無理のない、三方良し型交流事業を継続的に展開していくことこそ、21世紀型「観光」スタイルだと強く確信します。

例え一つひとつは小さくても、理念と仕組みさえしっかりすれば、きちんと相乗効果が得られます。

なお、この活動は来年度も継続します。また、今後は他組織や企業などとの連携を更に進めていきます。併せて、民泊体験型修学旅行を通じ、同様の「目的」での取り組みを進めていきます。

町内に多く存在する「困り事」をきっかけとして、都市部の方々、または若者と交流してみたいというご相談をお待ちしています。